

## 化学床／木床 用コート剤

本コート剤は、化学床材及び木床の保護・美観維持を目的に開発した一液性常温硬化型のシリコン系防汚コート剤です。

耐ヒールマーク性，耐水性，耐薬品性等に優れる他，黄変がなく汚れの浸透も少ないため剥離作業をほとんど必要とせず従来の水系樹脂ワックスと比較し，メンテナンスが容易で光沢ある美観を長期間保持することができます。

また，維持管理に伴い発生する汚水の排出もワックス工法より大幅に減少できるため建物自体の他，環境への悪影響も軽減されます。

### ◆一般特性◆

表-1 コート剤の一般特性

項目	単位	特性値
外観	—	無色～淡黄色透明液体
比重 (20/4℃)	—	1.09
不揮発分 (105℃×2h)	%	63
指触乾燥時間 (25℃・67%)	分	14
引火点	℃	25

注) 乾燥時間は、温度・湿度・塗布量・換気状態で異なります。

表-2 硬化後の皮膜一般特性

項目	硬化条件	
	25℃ 1日乾燥	25℃ 7日乾燥
外観	無色透明皮膜	無色透明皮膜
付着性	100/100	100/100
硬度	2H	4H

付着性：JISK5400 碁盤目テープ法 (基材：Pタイル、専用プライマー処理)

硬 度：JISK5400 鉛筆引っかき法 (基材：鋼板、専用プライマー処理)

### ◆施工対象基材◆

- ・木床フローリング
- ・コンポジションビニル床タイル
- ・ホモジニアスビニル床タイル
- ・一般ビニル床シート（長尺塩ビシート）

注）上記以外の化学床材は、事前に付着性を確認の上、施工してください。

### ◆施工対象箇所◆

- ・階段 : 作業性が悪く、質の低下を招きがちな階段への施工。
- ・トイレブース : 水、尿たれによる損傷、汚染が発生しやすいトイレブース。
- ・その他 : 定期清掃や剥離作業に手間がかり作業の手落ちが発生しがちな場所。

### ◆施工方法◆

1. ワックス剥離 : 施工面のワックスを完全に除去します。
2. 洗浄・水洗 : 施工面の汚れを除去し、洗剤成分を除去するため十分に水洗します。
3. 乾燥 : 水分があるとコート剤が白濁するため完全に乾燥させます。
4. プライマ塗布 : プライマをワックス用モップ、刷毛等で薄く均一に塗布します。
5. 乾燥 : 指で触りベタツキがなくなるまで乾燥させます。（乾燥時間：25℃で約30分）
6. コート剤塗布 : ワックス用モップ、刷毛等で均一に塗布します。
7. 乾燥（完了） : 25℃で12時間以上乾燥させて下さい。（歩行可能時間）

### ■製品缶種と標準使用量

①製品缶種 ・コート剤1L缶・プライマー2液性（主剤・硬化剤1：1）

②標準使用量 プライマー及び化学床コート剤 それぞれ 約20㎡/1L

## ■施工後のメンテナンス

### ■日常清掃

- 基本的に水を十分に絞ったモップ拭きで充分です。
- 除去し難い汚れ・ヒールマーク等はアルカリ洗剤を希釈し、白パッド等で擦れば簡単に落ちます

### ●軽微な磨耗（ボケ）・傷

- アルカリ洗剤希釈液でポリシャー（赤パッド等）で表面洗浄してください。

### ●注意点

- 荒いパッド（青・茶・黒 等）での洗浄は避けてください。  
表面にキズが入り、効果が大きく低下します。

## ■再施工（コート）

表面を研磨処理（ダイヤモンド研磨シート等）し、通常施工を実施してください。

### ◆使用上の注意◆

#### ●化学床専用コート剤

- 原液のまま使用して下さい。
- 床面（塗布面）は、十分乾燥して下さい。
- 気温が10℃以下の場合は施工しないで下さい。（皮膜が十分に硬化しません）
- コート剤、プライマーは、厚く塗りすぎないで下さいクラックの恐れがあります。
- ゴム手袋,保護メガネを着用して下さい。
- 皮膚に付着した時は、直ちに十分水洗して下さい。
- 作業時は、換気し、火気には十分注意して下さい。
- コート剤は空気中の湿気で硬化します。開栓後は、早めに栓をして直射日光、火気を避けて保管して下さい。
- 本液への水分の混入を避けて下さい。
- 小分けしたコート剤は、元の容器に戻さないで下さい。

◆性能（硬化皮膜）◆

項目		性能		
		化学床コート	一般水系樹脂ワックス (アクリル樹脂系高級ワックス)	
硬度（鉛筆硬度：25℃×168h乾燥）		4H	1H	
光沢度		77（1層塗り）	65（3層塗り）	
耐久性 ※-1	光沢度 図-1参照	75	54	
	外観	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 汚れの浸透なし</li> <li>• 軽微なボケ</li> <li>• 軽微な擦り傷多数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 汚れがワックス内部に浸透し美観不良（黒シミ）</li> <li>• 重度のボケ（光沢なし）</li> <li>• 中度の擦り傷多数</li> </ul>	
	ヒールマーク除去性	○：モップ拭きで除去不可のヒールマークなし	▲：モップ拭きで除去不可のヒールマーク多数	
耐薬品性※-2	塩酸 10%	○（異常なし）	○	
	水酸化ナトリウム 5%	×（剥離）	×（剥離）	
	マルチハラスクリーナー（原液）	○	×（剥離）	
	エチルアルコール	50%	△（痕跡）	×（白化）
		95%	×（剥離）	×（白化）
	灯油	○	○	
トルエン	△（痕跡）	×（剥離）		
耐水性	室水中 ×1週間	○	▲（肌荒れ）	
耐候性	屋外放置 ×1年間	○	▲（黄変）	
汚染防止性 ※-2	コーヒー	○	○	
	しょうゆ	○	○	
	ソース	○	○	
	レモン汁	○	○	
	毛染め剤	▲（着色）	▲（着色）	
	うがい薬（イソジン）	▲（着色）72h乾燥皮膜は異常なし	○	

※-1：某社オフィスビルの廊下に塗布し6ヶ月経過後、塗布面の外観観察・光沢度測定

（日常清掃方法：モップによる水洗後空拭き） 注）歩行頻度、歩行環境により耐久性は異なります。

※-2：25℃で24時間乾燥させた皮膜の上に薬品、汚染物質をスポットし1時間放置後水洗し目視観察

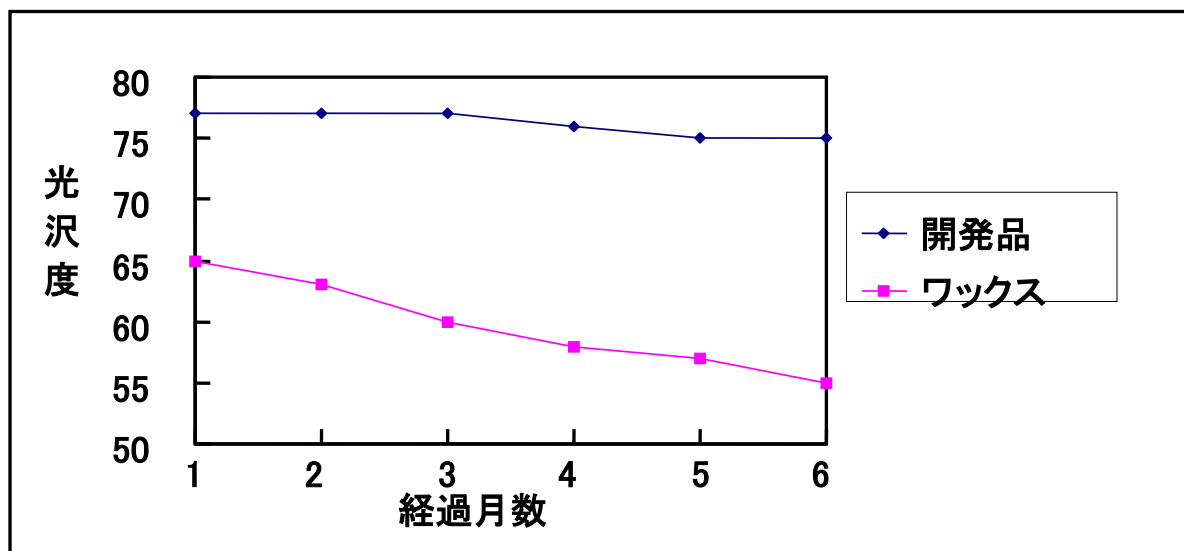


図-1 耐久性能（光沢度の経時変化）